



道路情報登録閲覧システム

運用マニュアル

道路情報登録閲覧システム(庁内版)

Ver3.0

【改定履歴】

版	更新日	改定内容
第3.0.0版	2013/3/25	postgreユーザのパスワードの表記について変更
第2.0.0版	2010/3/19	機能追加分の内容について追記 概要書の内容について追記
第1.1.2版	2009/5/18	haikei_imageフォルダのデータ整理を追記
第1.1.1版	2009/3/30	mapDataフォルダのデータ整理を追記
第1.1.0版	2008/1/30	他のマニュアル参照先章番号の修正
第1.0.0版	2008/10/24	初版

1.	はじめに	1
1.1.	マニュアル表記について	2
1.1.1.	操作手順	2
1.1.2.	ご注意	3
2.	システム運用計画	4
2.1.	運用スケジュール	4
2.2.	運用体制	5
3.	メンテナンス処理一覧	6
3.1.	ハードウェア	6
3.1.1.	サーバの起動と停止	6
3.1.2.	ハードディスク容量の管理	9
3.2.	ソフトウェア・アプリケーション	21
3.2.1.	道路情報登録閲覧システムの設定	21
3.2.2.	道路情報登録閲覧システムのログ管理	21
3.3.	データベース	22
3.3.1.	データのインポート	22
3.3.2.	データのエクスポート	22
3.3.3.	データベース最適化	22
3.4.	バックアップ	23
3.4.1.	バックアップの対象ファイル	23
3.4.2.	バックアップの計画	23
3.4.3.	バックアップ処理詳細	23
3.4.4.	バックアップ処理の登録	24
3.4.5.	データの復元	26
4.	障害対応・問合せ等	27
4.1.	障害報告、問合せ等	27
4.1.1.	コールセンター連絡先	27
4.1.2.	情報の収集について	27

1. はじめに

本マニュアルは、道路情報登録閲覧システムの運用を適切に行うために、システム管理者が行う主な役割を整理したものです。記載した内容を参考にいただき、各行政庁の運用に合わせて、適宜改変し利用いただければと思います。

1.1. マニュアル表記について

本マニュアルでは、設定説明等は以下のように表記されています。

1.1.1. 操作手順

手順を踏んだ設定の場合、その手順に沿って下記のように番号が振られています。

<表記例>

1. 設定1

設定1の具体的な操作...

2. 設定2

設定2の具体的な操作...

<コントロール等の表記>

コントロールやキーボード操作などは以下のように表記されています。

- ・ []: ボタンやコンボボックス、メニューなどのコントロール
- ・ 【 】: ダイアログ・ウィンドウ・パネルなどの画面
- ・ { }: キーボード

<操作上のヒントなど>

操作上のヒントなどを以下のようなアイコンでお知らせしています。

- ・ : ...の項目を参照してください。
- ・ : 操作上のヒントです。
- ・ : 操作上の注意事項です。

1.1.2. ご注意

- 本マニュアルは道路情報登録閲覧システムの標準的な機能について記載してあります。お客様のシステム環境等により画面構成・機能構成等が一部異なる場合があります。
- 本ソフトウェアの機能仕様・画面構成等は、改良のために予告なく変更される場合があります。
- 本マニュアルで使用している地図は、川崎市都市計画基本図 DM データを複製したものです。
(承認番号 川崎市指令ま計第66号)
- 指定道路は架空のデータです。現況の道路の指定状況と異なります。
- Microsoft、MS、Windows および Microsoft Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
その他、記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。

2. システム運用計画

2.1. 運用スケジュール

本システムを運用するにあたり、標準的なスケジュールは、以下の通りです。

	8	10	12	14	16	18	20	22	24	2	4	6
アプリケーション利用時間	■											
メンテナンス時間						■						
・日次バックアップ						■						
・データインポート							■					
・データエクスポート							■					
・空き容量確保バッチ									■			
・DB 最適化										■		
月次バックアップ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
公開データ作成	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

(1)アプリケーション利用時間:月曜日～金曜日 8:30 - 17:30

アプリケーションを利用する時間帯になります。

(2)メンテナンス時間:月曜日～金曜日 18:00 - 6:00

データのメンテナンスなどを行う時間帯になります。

・日次バックアップ:月曜日～金曜日 18:00 - 20:00

データのバックアップを行います。OS のサービスを利用した自動実行を推奨します。

・データインポート:月曜日～金曜日 20:00 - 22:00

指定道路調書や指定道路図などをシステムへインポートします。管理者による手動作業となります。なお作業前にはバックアップを行うことを推奨します。

・データエクスポート:月曜日～金曜日 19:00-22:00

システムで作成した指定道路図などをエクスポートします。管理者による手動作業になります。

・空き容量確保バッチ:月曜日～金曜日 24:00 - 2:00

アプリケーション利用時間帯や、データのインポート、エクスポートで作成した一次ファイルを削除します。OS のサービスを利用した自動実行を推奨します。

・DB 最適化:月曜日～金曜日 2:00 - 4:00

アプリケーション利用時間帯にデータベースに対して読み書きした際に作成されてしまう不要な情報を削除し、データベースを最適な状態とします。OS のサービスを利用した自動実行を推奨します。

(3)月次バックアップ:金曜日 18:00 - 月曜日 6:00(データ容量による)

日次のバックアップでは、ログやデータベースバックアップを中心としたファイルを対象としていますが、本システムでは大容量の地図ファイルや添付ファイルの利用が想定されます。これらのファイルは、日次バック

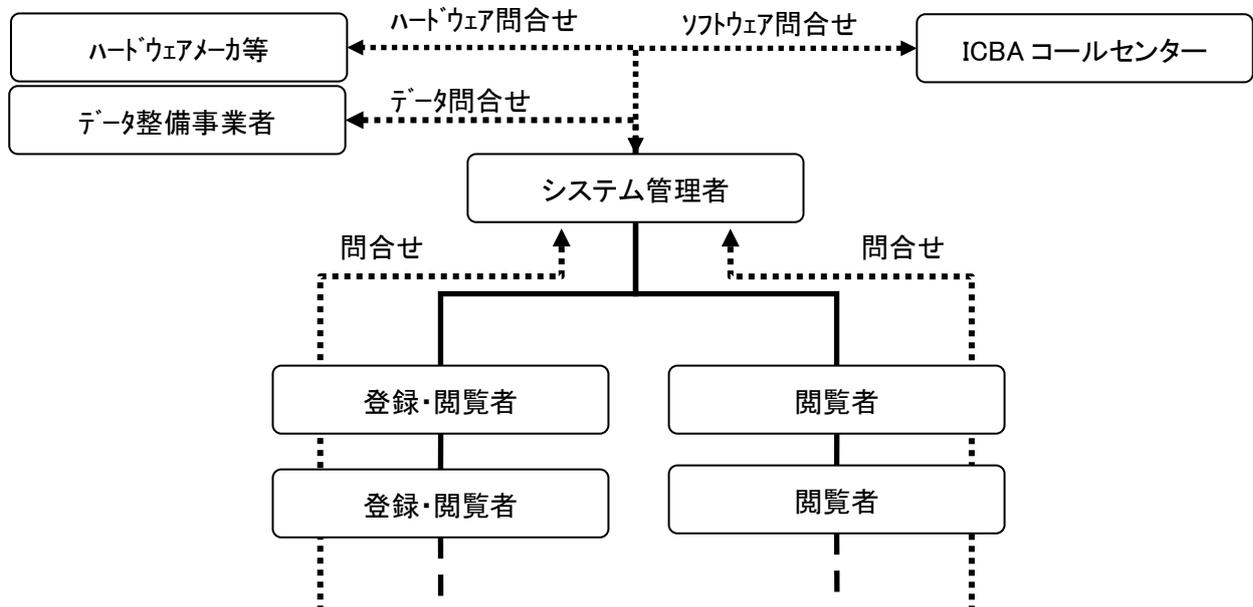
アップとは別に、定期的(月次)にバックアップすることを推奨します。バックアップの時間については、データ容量やバックアップ方式に大きく依存するため、実態に合わせて計画する必要があります。

(4)公開データ作成:金曜日 18:30 - 月曜日 6:00(対象面積による)

公開用のデータを作成します。公開データ作成を行う場合、「(2)メンテナンス時間」に実施する作業は行わず、公開データ作成を行った後で実施します。公開用データの作成は、非常に時間がかかるため、実態に合わせて計画する必要があります。

2.2. 運用体制

本システムを運用するにあたり、推奨する体制は、以下の通りです。



 :各ユーザのパスワードは定期的に変更することをお勧めします(月に一度程度)。パスワードの変更は、システム管理者が全ユーザのパスワードを変更する方法と、各ユーザが管理ツールを利用して自分のパスワードを変更する方法があります。詳細は、管理ツールマニュアルを参照して下さい。

3. メンテナンス処理一覧

3.1. ハードウェア

3.1.1. サーバの起動と停止

計画停電等によりサーバを停止する場合や、起動する場合の処理について記載します。

● サーバの停止

(1) システムサービス時間内にサーバを停止する場合は、利用者に事前にシステム停止のアナウンスを行います。アナウンスの方法は、各行政庁の運用に従ってください。

(2) 管理者が行うバッチ処理が実行中でないことを確認します。

➡…: 管理ツールマニュアルのログの検索を参照してください。

(3) サーバをシャットダウンします。

➡…: シャットダウン方法については、OS のマニュアルを参照してください。

● サーバの起動

(1) サーバを起動します。

➡…: サーバ起動方法については、サーバのマニュアルを参照してください。

(2) ブラウザからシステムにアクセスし、起動を確認します。

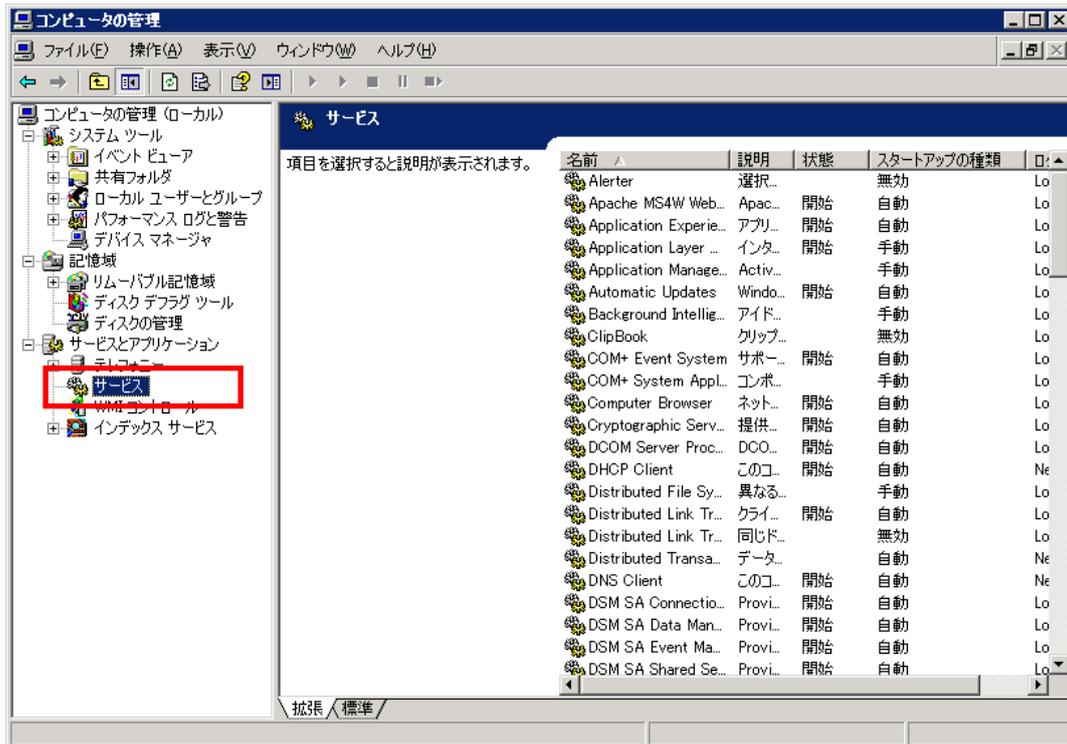
- ・ : 起動できない場合は、サービスが起動されていない可能性があります。以下の方法でサービスの起動を確認してください。

■ Windows Server 2003 の場合

- [スタート]メニューの[マイコンピュータ]を右クリックし、[管理(G)]を選択します。



- [サービスとアプリケーション]—[サービス]をクリックし、サービスの一覧を表示します。

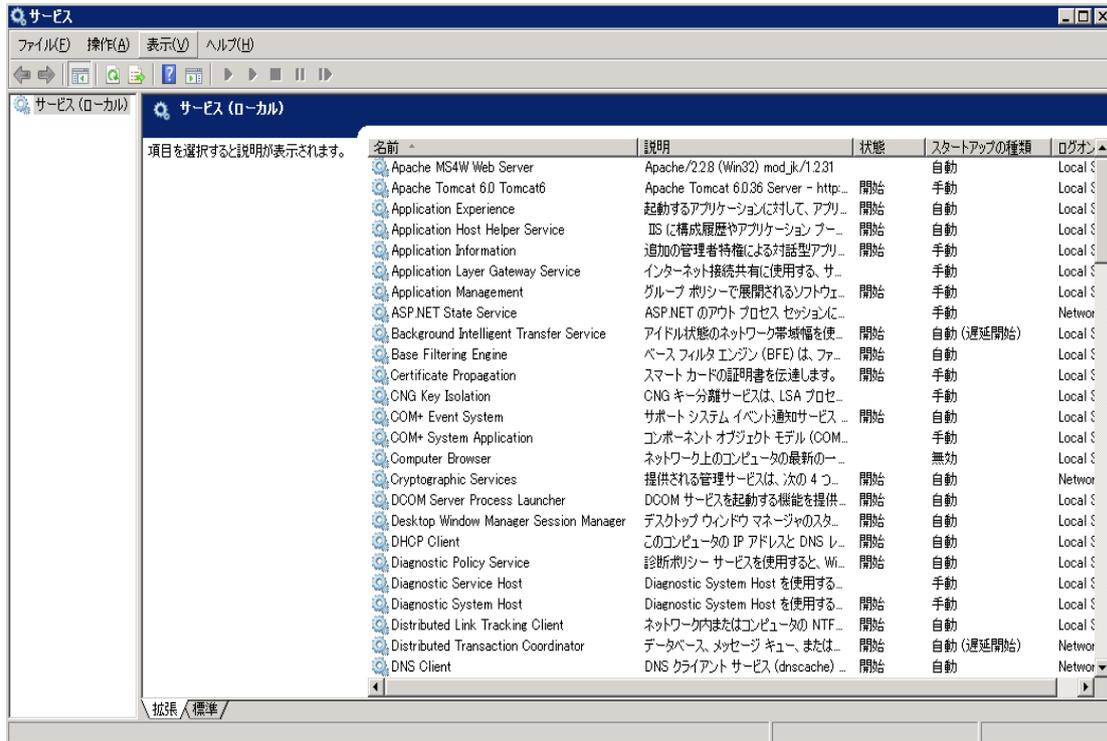


■Windows Server 2008 の場合

- [スタート]メニューの[すべてのプログラム]-[管理ツール]-[サービス]を選択します。

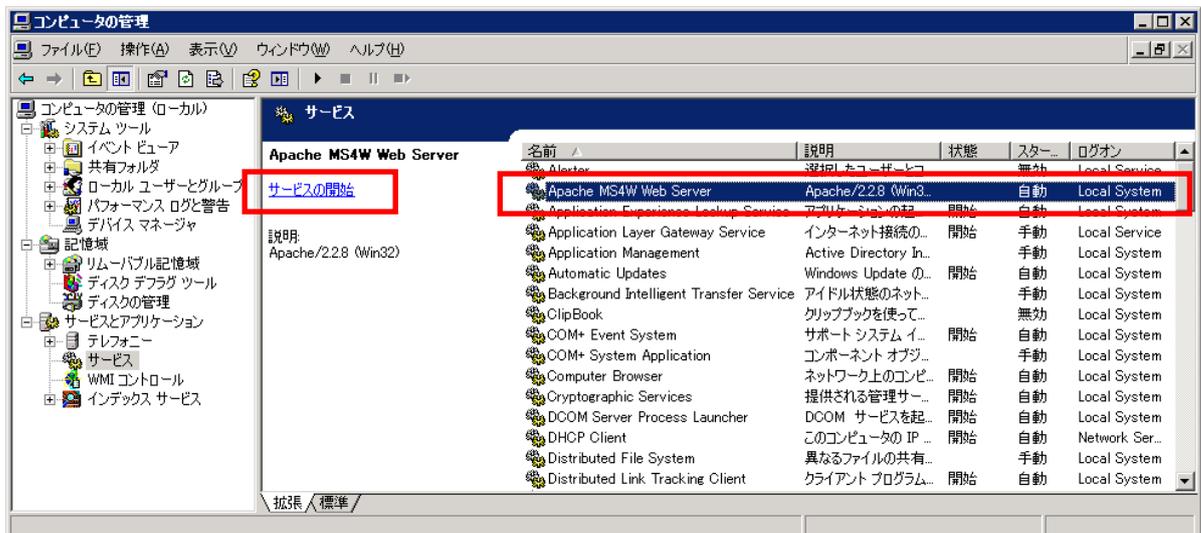


- 以下のサービスのウィンドウが表示されます。



■ Windows Server 2003/2008 共通操作

- 以下のサービスの状態が「開始」である事を確認します。
 - ✧ Apache MS4W Web Server
 - ✧ PostgreSQL Database Server 8.2
- 状態が「開始」となっていない場合、対象のサービスを一覧より選択し、[サービスの開始]をクリックします。



3.1.2. ハードディスク容量の管理

本システムは、大量でのデータを取り扱うため、ハードディスク容量を常に適切に保持する必要があります。以下に管理方法について記載します。

- ハードディスク空き容量の確認

- (1)ハードディスク空き容量の確認

Windows エクスプローラのプロパティよりアプリケーションをインストールしたドライブの空き容量を Web サーバ、DB サーバ共に確認します。



- (2)Web サーバと DB サーバの空き容量

各サーバの空き容量が以下の値以上確保されていることを確認して下さい。

- ・Web サーバ : 2GB 以上
- ・DB サーバ : 2GB 以上
- ・ : Web サーバと DB サーバを同一のサーバとしている場合は、上記空き容量を加算した値以上の空き容量が確保されている事を確認して下さい。
- ・ : 上記の容量は、データ登録がされない稼動を行うのに最低限必要となる容量です。

- ハードディスク空き容量の確保

- (1)地図キャッシュファイル

地図キャッシュファイルを削除することにより空き容量の確保をします。地図キャッシュファイルの削除には、以下のバッチプログラムを利用します。

- プログラム名 : DeleteMapImage.bat
- インストール先 : roadinfo¥ms4w¥tmp¥ms_tmp
- 処理内容 : デフォルト表示以外の地図キャッシュファイルを削除します。

- 頻度 : 毎日(毎晩)行うことを推奨します。日時バッチ処理として登録するには、OS のタスクとして追加するのが便利です。

◇ 日次バッチ処理の登録をする。

■Windows Server 2003 の場合

Web サーバのスタートメニューより、[プログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[タスク]を選択し、「スケジュールされたタスクの追加」を起動します。タスク追加の詳細については、OS のマニュアルを参照下さい。

■Windows Server 2008 の場合

Web サーバのスタートメニューより、[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[タスクスケジューラ]を選択し、「タスクスケジューラ」を起動します。画面右の操作の[基本タスクの作成]をクリックし、新規タスクを作成します。タスク追加の詳細については、OS のマニュアルを参照下さい。

◇ 登録時の詳細について。

タスクの追加を行う際指定する、設定値について下記に記載します。

項目	意味	設定値	備考
実行するプログラム	実行するプログラムを指定します。	DeleteMapImage.bat	
タスクの名前	タスクの名前を指定します。	任意	
このタスクの実行	タスクの実行する単位を指定します。	日単位(D)	
開始時刻	タスクを開始する時刻を指定します。	任意	オンライン運用時間外を指定して下さい。
このタスクの実行	タスクを実行する間隔を指定します。	毎日(A)	
開始日	タスクの実行を開始する日を指定します。	運用開始日以降	
ユーザ名、パスワード	タスクを実行するユーザ名を指定します。	システム管理者のユーザ ID	例 administrator

(2) 不要となった各種ファイルを削除することにより空き容量の確保をします。

- プログラム名 : import.bat
- インストール先 : roadinfo¥application¥bat
- 処理内容 : データインポート時に作成される一時ファイルを削除します。
- 頻度 : 毎日(毎晩)行うことを推奨します。日時バッチ処理として登録するには、OS のタスクとして追加するのが便利です。

◇ 日次バッチ処理の登録をする。

■Windows Server 2003 の場合

Web サーバのスタートメニューより、[プログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[タスク]を選択し、「スケジュールされたタスクの追加」を起動します。タスク追加の詳細については、OS のマニュアルを参照下さい。

■Windows Server 2008 の場合

Web サーバのスタートメニューより、[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[タスクスケジューラ]を選択し、「タスクスケジューラ」を起動します。画面右の操作の[基本タスクの作成]をクリックし、新規タスクを作成します。タスク追加の詳細については、OS のマニュアルを参照下さい。

◇ 登録時の詳細について。

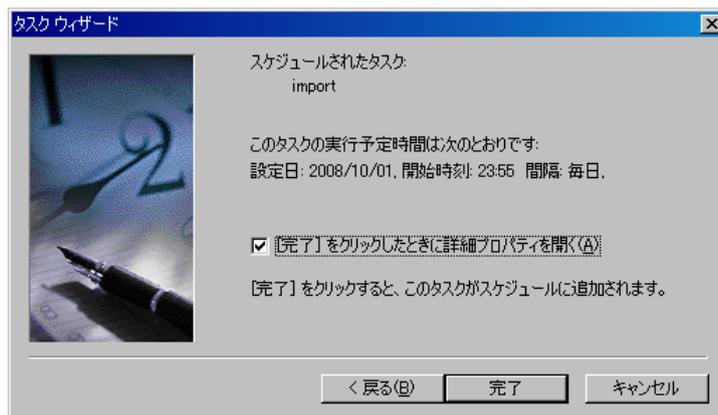
タスクの追加を行う際指定する、設定値について下記に記載します。

項目	意味	設定値	備考
実行するプログラム	実行するプログラムを指定します。	import.bat	引数 DJ610S0008 admin
タスクの名前	タスクの名前を指定します。	任意	
このタスクの実行	タスクの実行する単位を指定します。	日単位(D)	
開始時刻	タスクを開始する時刻を指定します。	任意	オンライン運用時間外を指定して下さい。
このタスクの実行	タスクを実行する間隔を指定します。	毎日(A)	
開始日	タスクの実行を開始する日を指定します。	運用開始日以降	
ユーザ名、パスワード	タスクを実行するユーザ名を指定します。	システム管理者のユーザ ID	例 administrator

◇ パラメータの指定について。

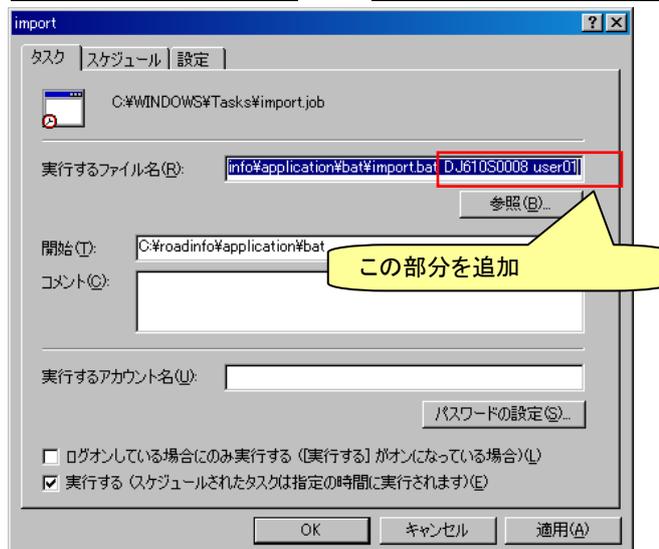
■ Windows Server 2003 の場合

削除処理を起動するには、パラメータが必要となります。タスク追加の完了画面で、[完了]ボタンをクリックしたときに[詳細プロパティを開く]をチェックして下さい。タスクを作成済みの場合はタスクのプロパティを表示して下さい。



[実行するファイル名]に、パラメータを追加して下さい。

~ %bat%import.bat → ~ %bat%import.bat DJ610S0008 admin



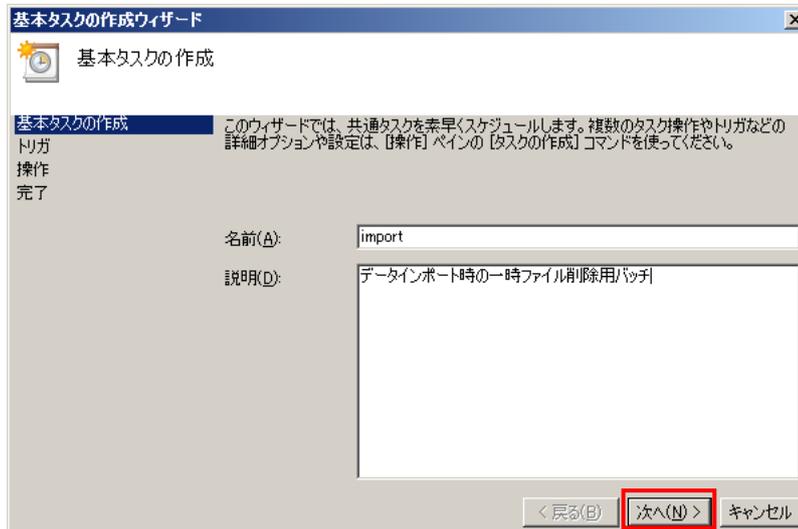
[実行するアカウント名]、[パスワード]、[パスワードの確認入力]を入力し完了します。[OK]ボタ

ンをクリックし、完了します。

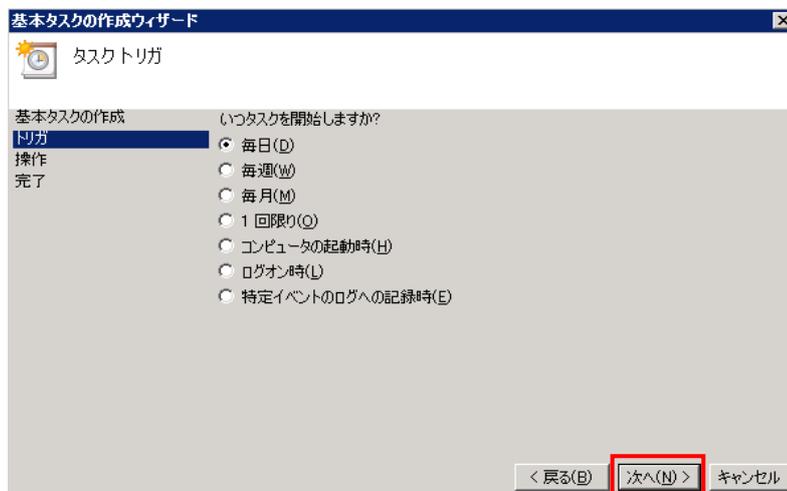
■ タスク作成済みの場合、タスクのプロパティを表示するとこの画面が表示されます。

■ Windows Server 2008 の場合

タスクスケジューラの画面で、[基本タスクの作成]をクリックすると以下の画面が表示されます。タスクの名前を任意に入力します。例として import としました。[次へ]ボタンをクリックします。



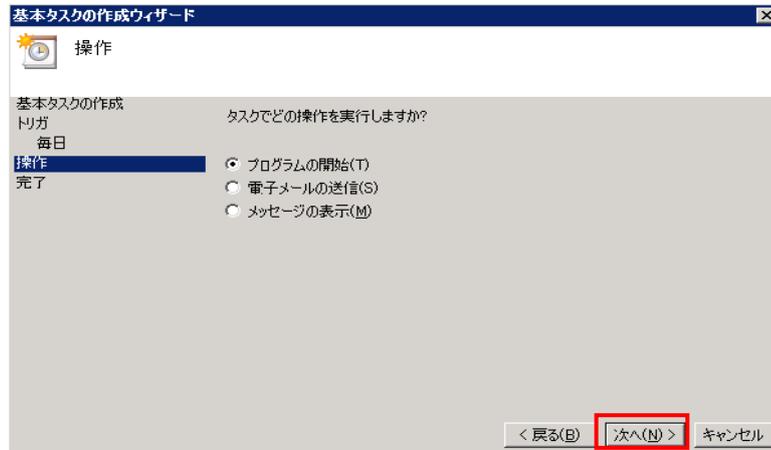
トリガの画面では、タスク開始条件を入力します。[次へ]ボタンをクリックします。



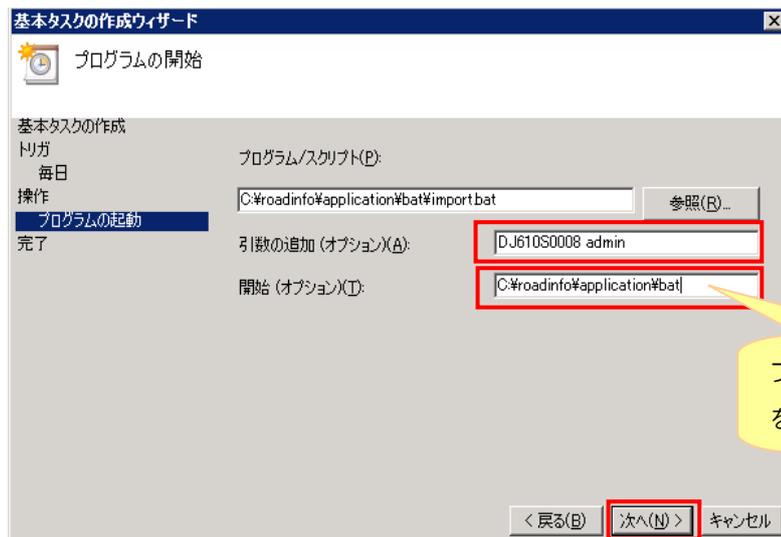
以下の画面で開始日と時間、間隔の入力をします。[次へ]ボタンをクリックします。



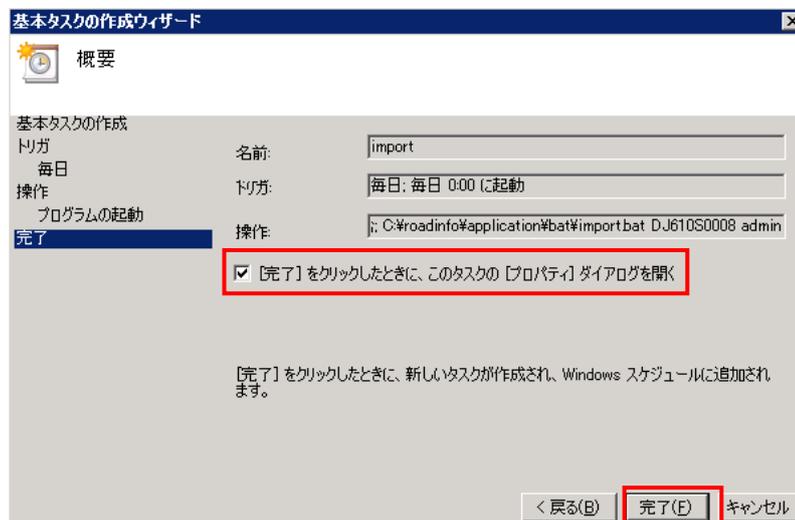
以下の画面でタスクを操作に「プログラムの開始」をクリックします。[次へ]ボタンをクリックします。



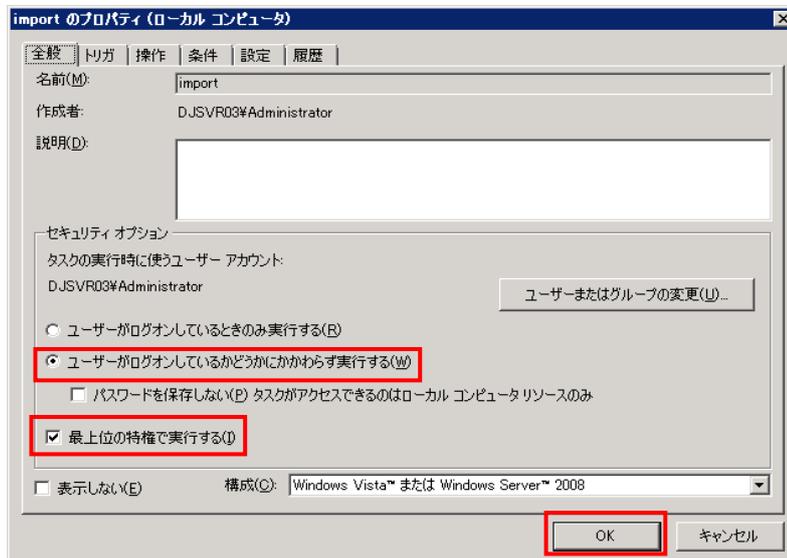
以下の画面で実行するプログラムと、引数を指定します。また開始（オプション）には、プログラムの実行フォルダを指定します。[次へ]ボタンをクリックします。



以下の画面で「[[完了] をクリックしたときに、このタスクの [プロパティ] ダイアログを開く」のチェックボックスにチェックし、[次へ]ボタンをクリックします。



以下の画面で[ユーザがログオンしているか同化にかかわらず実行する]を選択します。さらに「最上位の特権で実行する」のチェックボックスにチェックをします。[OK]ボタンをクリックし完了します。



 タスク作成済みの場合、タスクのプロパティを表示するとこの画面が表示されます。

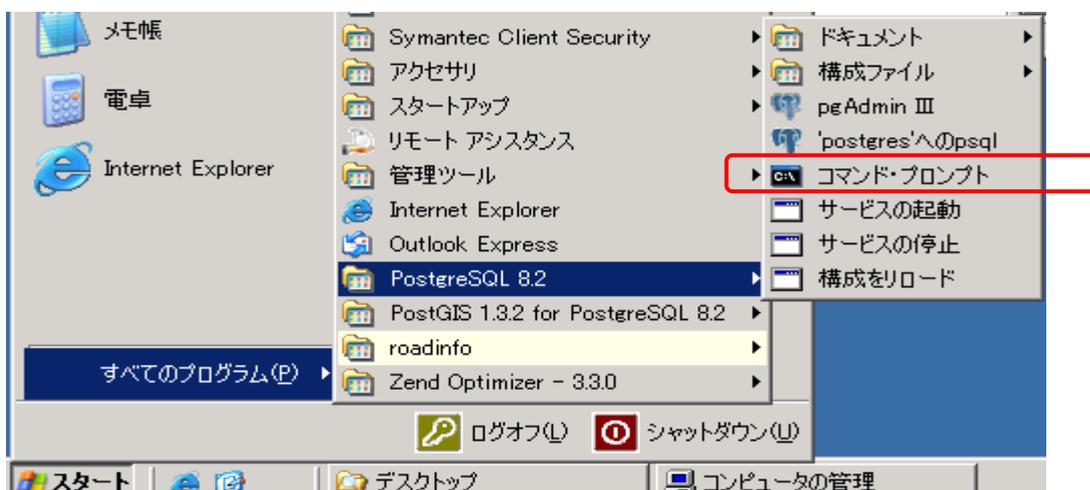
(3) mapData フォルダのデータの整理

<インストール先のドライブ名>%roadinfo%application%public%mapfunction%mapData フォルダには、背景図や索引図のインポートを複数回行った場合、現在使用している背景図データと過去にインポートした背景図データが混在している状態となります。以下に示す手順で現在使用している背景図データのフォルダの確認ができます。不要となったフォルダについては、Explorer で削除することが可能です。

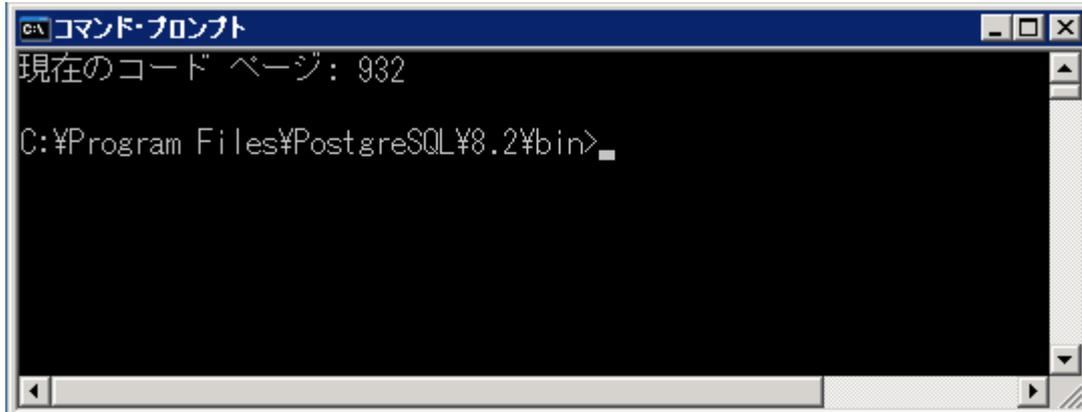
1) PostgreSQL のサービスが起動していない場合、PostgreSQL のサービスの起動を行います。

 …: 本マニュアルの「3.1.1 サーバの起動と停止」を参照してください。

2)タスクバーの[スタート]—[すべてのプログラム]—[PostgreSQL 8.2]—[コマンド・プロンプト]を選択します。



以下に示すコマンド・プロンプトが表示されます。



3)psqlの起動

以下のコマンドを入力します。

```
psql roadinfo -U roadinfo
```

以下のようにパスワードを聞かれた場合、パスワードを入力し[Enter]キー押下します。

```
Password for user roadinfo:**** ← パスワードの入力
```

ログインに成功すると以下のメッセージが表示されます。

```
Welcome to psql 8.2.6, the PostgreSQL interactive terminal.
Type: ¥copyright for distribution terms
      ¥h for help with SQL commands
      ¥? for help with psql commands
      ¥g or terminate with semicolon to execute query
      ¥q to quit
roadinfo=#
```

4)SQL の実行

SQL を実行するには、roadinfo=# に続けて以下のように入力し、[Enter]キーを押下します。

```
select layer_filepath from i_layer where layer_filepath !=";
```

↑
注) シングルコート2つに続けてセミコロン (;) を入力します。

<インストール先のドライブ名>¥roadinfo¥application¥public¥mapData フォルダ配下の現在使用している数字 12 桁のフォルダ名の一覧が表示されます。ここに **表示されていない数字 12 桁のフォルダが不要なフォルダとなります。** Explorer で **表示されていない数字 12 桁のフォルダ** を削除することが可能です。

 : mapData フォルダ配下の数字 12 桁以外のフォルダとファイル (fonts フォルダ、haikei_image フォルダ、images フォルダ、symbol フォルダ、dummy ファイル) は削除しないでください。

以下に SQL 実行後の例を示します。mapData フォルダ配下の現在使用している数字 12 桁のフォルダが表示されます。表示されている赤字のフォルダは使用中のフォルダのため削除しないでください。

```
/090210093401/shiteizu/haikei/590/txt_tileShp.dbf
/090210093401/shiteizu/haikei/502/lin_tileShp.dbf
/090210093401/shiteizu/haikei/510/lin_tileShp.dbf
/090210093401/shiteizu/haikei/520/lin_tileShp.dbf
/090210093401/shiteizu/haikei/540/lin_tileShp.dbf
/090210093401/shiteizu/haikei/550/lin_tileShp.dbf
/090210093401/shiteizu/haikei/551/lin_tileShp.dbf
/090210093401/shiteizu/haikei/560/lin_tileShp.dbf
/090210093401/shiteizu/haikei/570/lin_tileShp.dbf
/090210093401/shiteizu/haikei/580/lin_tileShp.dbf
(10 rows)

roadinfo=#
```

 : shiteizu フォルダ配下にある haikei フォルダ以外のフォルダは削除可能です。

5) PSQL の終了

roadinfo=# に続けて以下のように入力します。

¥q ←¥q と入力して、[Enter]キーを押下し、終了します。

psql が終了します。

6) コマンド・プロンプトの終了

ウインドウの[X]ボタンでウインドウを閉じて作業を完了します。

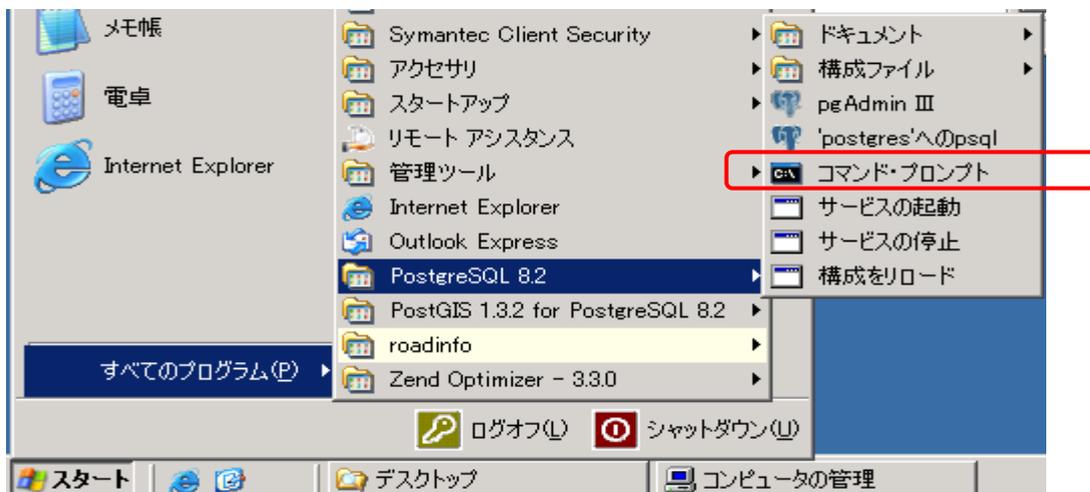
(4) mapData フォルダのデータの整理(画像データ)

<インストール先のドライブ名>¥roadinfo¥application¥public¥mapfunction¥mapData¥haikei_image フォルダには、背景図(画像)のインポートを複数回行った場合、現在使用している背景図(画像)データと過去にインポートした背景図(画像)データが混在している状態となります。以下に示す手順で現在使用していない背景図(画像)データのファイル及びフォルダの確認ができます。不要となったファイル及びフォルダについては、Explorer で削除することが可能です。

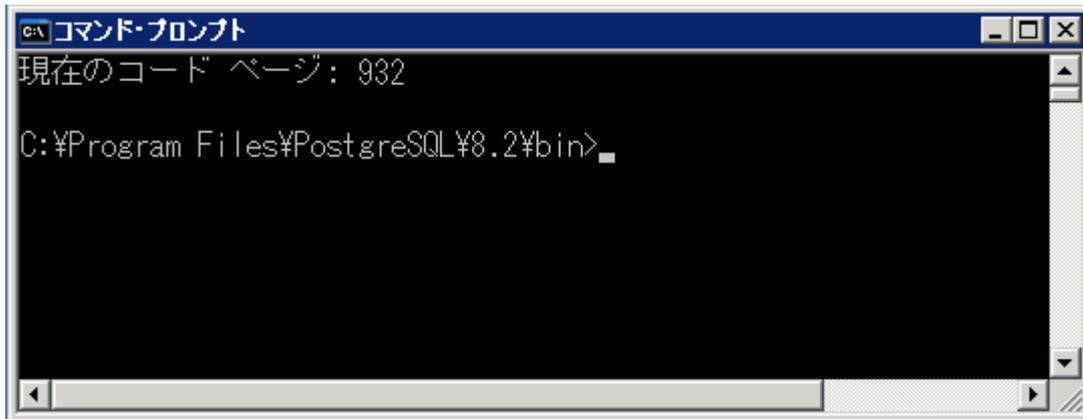
1) PostgreSQL のサービスが起動していない場合、PostgreSQL のサービスの起動を行います。

➡…: 本マニュアルの「3.1.1 サーバの起動と停止」を参照してください。

2) タスクバーの[スタート]—[すべてのプログラム]—[PostgreSQL 8.2]—[コマンド・プロンプト]を選択します。



以下に示すコマンド・プロンプトが表示されます。



3)psqlの起動

以下のコマンドを入力します。

```
psql roadinfo -U roadinfo
```

以下のようにパスワードを聞かれた場合、パスワードを入力し[Enter]キーを押下します。

Password for user roadinfo:***** ← **パスワードの入力**

ログインに成功すると以下のメッセージが表示されます。

```
Welcome to psql 8.2.6, the PostgreSQL interactive terminal.
Type: ¥copyright for distribution terms
      ¥h for help with SQL commands
      ¥? for help with psql commands
      ¥g or terminate with semicolon to execute query
      ¥q to quit
roadinfo=#
```

4)SQL の実行

SQL を実行するには、roadinfo=# に続けて以下のように入力し、[Enter]キーを押下します。

```
select layer_filepath from i_layer where layer_filepath like '/haikei_image%' and status = '99';
```

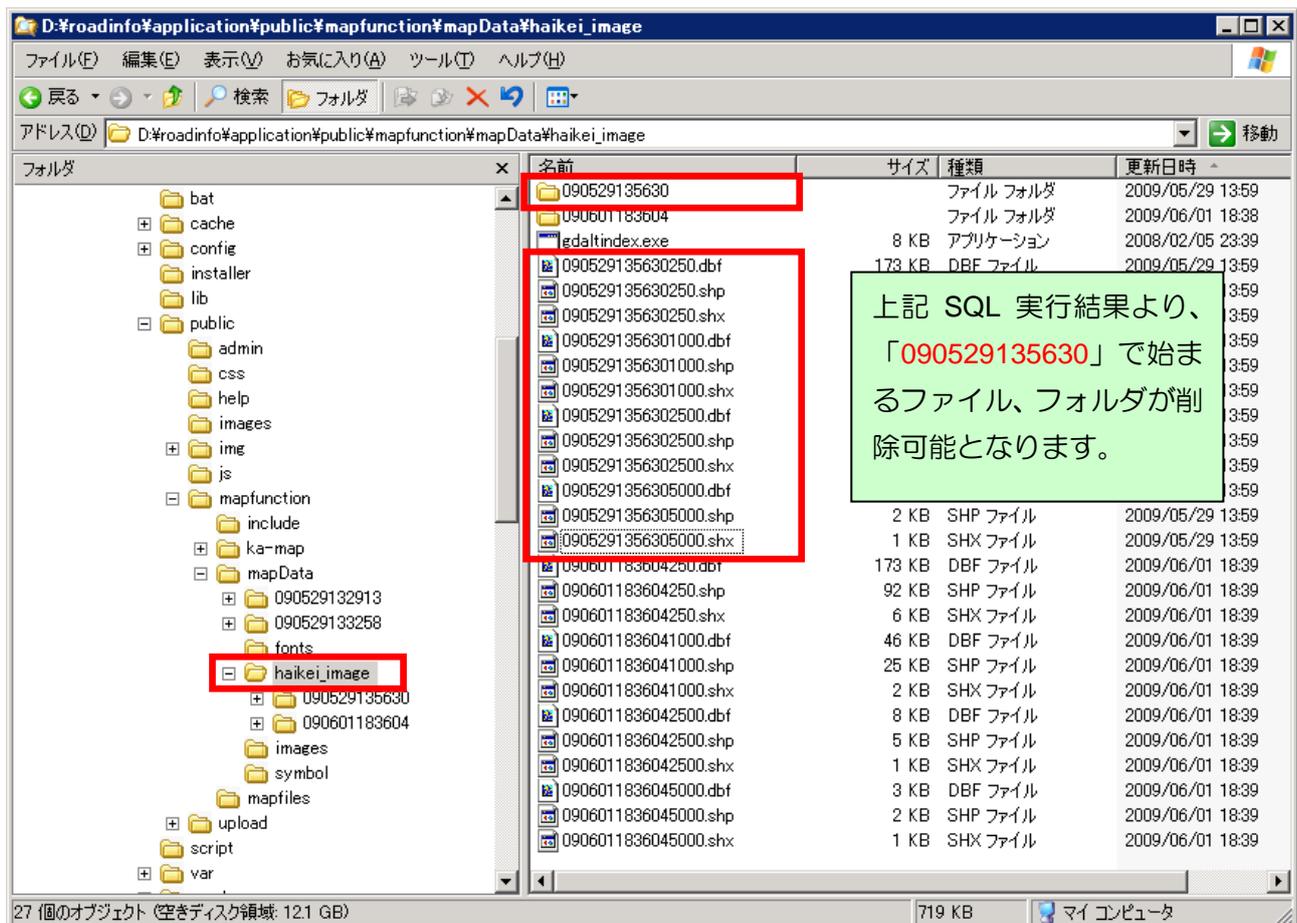
↑
注) シングルコートに続けて
セミコロン (;) を入力
します。

<インストール先のドライブ名>¥roadinfo¥application¥public¥mapfunction¥mapData フォルダ配下の現在**使用されていない**数字 12 桁付きのファイル名の一覧が表示されます。ここに **表示されているファイル名の先頭12桁の数字と同じ数字を先頭に含むファイル及びフォルダが不要なファイル及びフォルダとなります。**Exploprer で **数字 12 桁を含むファイル及びフォルダ** を削除することが可能です。

以下に SQL 実行後の例を示します。mapData フォルダ配下の現在使用していない haikei_image フォルダ配下の数字 12 桁を含むファイル名が表示されます。

```
/haikei_image/090529135630250.shp
/haikei_image/0905291356301000.shp
/haikei_image/0905291356302500.shp
/haikei_image/0905291356305000.shp
(4 rows)

roadinfo=#
```



 : haikei_image フォルダは絶対に削除しないでください。

5) PSQL の終了

roadinfo=# に続けて以下のように入力します。

¥q ← ¥q と入力して、[Enter]キーを押下し、終了します。

psql が終了します。

6) コマンド・プロンプトの終了

ウィンドウの[X]ボタンでウィンドウを閉じて作業を完了します。

(5) その他ファイルを削除することにより空き容量の確保をします。

その他、サーバ内にある不要なファイルを削除し、空き容量の確保を行って下さい。

3.2. ソフトウェア・アプリケーション

3.2.1. 道路情報登録閲覧システムの設定

- アプリケーションの設定

アプリケーションの設定は、下記ファイルの設定値を変更することにより可能となります。

ディレクトリ	ファイル名	備考
roadinfo¥application¥config	config.ini	

➡・・・:環境構築マニュアルの「10 その他の設定」を参照して下さい。

- 利用ユーザの管理

管理ツールのユーザ管理機能を利用して、システム利用者の管理が行えます。不要となったユーザの削除や利用権限の見直しを行うことにより、システムの保守性が向上します。

➡・・・:管理ツールマニュアルの「3.1 ユーザ管理」を参照して下さい。

- 地図レイヤの管理

地図レイヤは、インストール時は必要最低限のレイヤのみ用意されてます。ユーザの目的によってレイヤを増やすことは可能ですが、レイヤを増やしすぎるとシステムの負荷も高くなり、レスポンス悪化を招きます。不要となったレイヤは管理ツールのスタイル管理を利用して削除する様にして下さい。

➡・・・:管理ツールマニュアルの「3.5 レイヤ管理」を参照して下さい。

3.2.2. 道路情報登録閲覧システムのログ管理

- アプリケーションログの管理

アプリケーションログは、システムの利用状況、エラー発生時にはエラー内容などをアプリケーションログとして出力します。アプリケーションログの照会は、管理ツールのログ管理で行います。

➡・・・:管理ツールマニュアルの「3.4 ログ管理」を参照して下さい。

- その他のログの管理

- Apache のログ

Apache では以下のログファイルを出力しています。

ディレクトリ	ファイル名	備考
roadinfo¥ms4w¥Apache¥logs	access.log	
roadinfo¥ms4w¥Apache¥logs	error.log	

- PostgreSQL のログ

ディレクトリ	ファイル名	備考
PostgreSQL¥8.2¥data¥pg_log	postgresql-yyyy-mm-dd_HHMMSS.log	

3.3. データベース

3.3.1. データのインポート

 …: 管理ツールマニュアルの「3.2 データインポート」を参照してください。

3.3.2. データのエクスポート

 …: 管理ツールマニュアルの「3.3 データエクスポート」を参照してください。

3.3.3. データベース最適化

データベースを最適な状態とするために、以下のプログラムを利用してください。

① PostgreSQL のバキューム処理を実行します。

- プログラム名 : vacuumdb.exe
- インストール先 : C:\Program Files\PostgreSQL\8.2\bin
- 処理内容 : データベースのバキューム処理を行います。
- 頻度 : 毎日(毎晩)行うことを推奨します。日時バッチ処理として登録するには、OS のタスクとして追加するのが便利です。

◇ 日次バッチ処理の登録をする。

Web サーバの Windows スタートメニューより、[プログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[タスク]を選択し、「スケジュールされたタスクの追加」を起動します。タスク追加の詳細については、OS のマニュアルを参照下さい。

◇ 登録時の詳細について。

タスクの追加を行う際指定する、設定値について下記に記載します。

項目	意味	設定値	備考
実行するプログラム	実行するプログラムを指定します。	vacuumdb.exe	
タスクの名前	タスクの名前を指定します。	任意	
このタスクの実行	タスクの実行する単位を指定します。	日単位(D)	
開始時刻	タスクを開始する時刻を指定します。	任意	オンライン運用時間外を指定して下さい。
このタスクの実行	タスクを実行する間隔を指定します。	毎日(A)	
開始日	タスクの実行を開始する日を指定します。	運用開始日以降	
ユーザ名、パスワード	タスクを実行するユーザ名を指定します。	システム管理者のユーザ ID	

◇ パラメータの指定について。

バキューム処理を起動するには、パラメータが必要となります。パラメータの指定方法は、「3.1.2 ハードディスク容量の管理」の(2)を参照して下さい。

追加するパラメータ

~ %bin%vacuumdb.exe → ~ %bin%vacuumdb.exe -d roadinfo -f -z -U postgres

3.4. バックアップ

3.4.1. バックアップの対象ファイル

① バックアップ対象データとタイミング

データのバックアップ処理の対象となるデータは、以下の通りです。

サーバ	データ	場所	日次	月次等
Web	地図ファイル	roadinfo¥application¥public¥mapfunction¥mapData		○
	調書二面、添付ファイル	roadinfo¥application¥public¥upload¥roadrec		○
	ログ	roadinfo¥ms4w¥Apache¥logs	○	○
	設定	roadinfo¥ms4w¥Apache¥conf roadinfo¥application	○	○
DB	データベース内容	(後述のバッチファイルに依存)	○	○
	ログ	PostgreSQL¥8.2¥data¥pg_log	○	○
	設定	PostgreSQL¥8.2¥data¥postgresql.conf PostgreSQL¥8.2¥data¥pg_hba.conf	○	○

- ・ : バックアップを行うタイミングとしては、データ整合性の観点から、1日の業務終了後に実施してください(データインポートなどを実施する前に行ってください。)

3.4.2. バックアップの計画

① バックアップ媒体と世代

バックアップは以下のポイントを抑える形で計画することを推奨します。

- 2世代以上の管理
- データ整合性の保障されているタイミング

② 取得方法

取得の方法は、各サーバのバックアップ機能を実行します。また媒体への格納については、各ハードウェアの状況に合わせて計画してください。

3.4.3. バックアップ処理詳細

① バックアップ処理と内容

バックアップ処理は、以下の内容で構成されています。

タイプ	周期	操作内容
自動	毎日(定時)	バックアップ機能でのバックアップ実行
自動/手動	毎日	バックアップファイルをテープ等へ保存

3.4.4. バックアップ処理の登録

(1)WEB サーバのバックアップファイルを作成します。調達したバックアップ機器用ソフト、または、OS のバックアップ機能を利用します。

◇ **処理を登録をする。**

バックアップ機器用ソフトを利用される方は、ソフト付属のマニュアルを参照してください。OS のバックアップ機能を利用するには、Web サーバの Windows スタートメニューより、[プログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[バックアップ]を選択し、タスクを登録します。詳細については、OS のマニュアルを参照ください。

(2)DB のバックアップファイルを作成します。以下のバッチプログラムを利用します。

- プログラム名 :DJ950B0001.bat
- インストール先 :roadinfo¥application¥script
- 処理内容 :PostgreSQL のダンプファイルを作成します。
- 頻度 :毎日(毎晩)行うことを推奨します。日時バッチ処理として登録するには、OS のタスクとして追加するのが便利です。

◇ **日次バッチ処理の登録をする。**

Web サーバの Windows スタートメニューより、[プログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[タスク]を選択し、「スケジュールされたタスクの追加」を起動します。タスク追加の詳細については、OS のマニュアルを参照下さい。

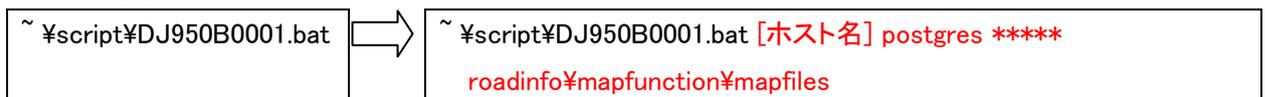
◇ **登録時の詳細について。**

タスクの追加を行う際指定する、設定値について下記に記載します。

項目	意味	設定値	備考
実行するプログラム	実行するプログラムを指定します。	DJ950B0001.bat	
タスクの名前	タスクの名前を指定します。	任意	
このタスクの実行	タスクの実行する単位を指定します。	日単位(D)	
開始時刻	タスクを開始する時刻を指定します。	任意	オンライン運用時間外を指定して下さい。
このタスクの実行	タスクを実行する間隔を指定します。	毎日(A)	
開始日	タスクの実行を開始する日を指定します。	運用開始日以降	
ユーザ名、パスワード	タスクを実行するユーザ名を指定します。	システム管理者のユーザ ID	

◇ **パラメータの指定について。**

バックアップ処理を起動するには、パラメータが必要となります。パラメータの指定方法は、「3.1.2 ハードディスク容量の管理」の(2)を参照して下さい。追加するパラメータは以下の通りです。



- [ホスト名]には、データベースがインストールされているホスト名を指定します。WEB サーバとDBサーバが同一環境の場合は、“localhost”と指定して下さい。
- *****には、postgres ユーザのパスワードを入力して下さい。

◇ バックアップファイルについて。

バックアップ処理を実行すると、以下のディレクトリにバックアップファイルが作成されます。

対象データ	バックアップファイル名	備考
DB 内容	roadinfo¥application¥backup¥yyyy_mm_dd¥roadinfo_dump.sql	
その他ファイルなど	roadinfo¥application¥backup¥yyyy_mm_dd¥data	

■ バックアップフォルダに作成される yyyy_mm_dd は、バックアップ処理実行日付となります。同一日にバックアップ処理を2度実行すると、yyyy_mm_dd の後ろに連番が付与されます。

例) 2008 年 10 月 31 日に 2 度バックアップを実施した場合。

1 度目 : roadinfo¥application¥backup¥2008_10_31

2 度目 : roadinfo¥application¥backup¥2008_10_31_1

(3) バックアップファイルを媒体へ保存します。方法については、導入されたバックアップ装置、バックアップソフトウェアにより異なります。実態に合わせて計画・登録してください。

3.4.5. データの復元

バックアップファイルよりデータの復元が行えます。

① 復元データの配置

復元元となるデータの配置先は、以下の通りです。

サーバ	データ	場所	備考
Web	バックアップファイル	OS のバックアップ機能で指定したフォルダ	
DB	バックアップファイル	roadinfo¥application¥backup	

② データ復元の実行

バックアップファイルを復元します。WEB サーバについては、調達したバックアップ機器専用ソフトまたは、OS のバックアップ機能を用いてリストアします。DB サーバについては、以下の方法で復元します。

(i) バックアップファイルの配置

リストアするデータをリストアフォルダへ配置します。前日の状態へ戻す場合も、バックアップフォルダとリストアフォルダが異なるので、バックアップファイルの配置が必要となります。

(ii) データリストアコマンドの実行

以下のコマンドをコマンドラインより実行します。

- プログラム名 :DJ960B0001.bat
- インストール先 :roadinfo¥application¥script
- 処理内容 :PostgreSQL のダンプファイルをリストアします。

(iii) データリストアコマンドの実行パラメータ

データリストアコマンド実行時、以下のパラメータを指定します。

```
~ ¥script¥DJ960B0001.bat [ホスト名] postgres ***** roadinfo¥mapfunction¥mapfiles
```

 [ホスト名]には、データベースがインストールされているホスト名を指定します。WEB サーバと DB サーバが同一環境の場合は、“localhost”と指定してください。

*****には、postgres ユーザのパスワードを入力してください。

 データ復元では、WEB サーバの情報とDB サーバの情報が整合性の取れている状態である必要があります。同日に行ったバックアップデータを復元対象として下さい。

4. 障害対応・問合せ等

4.1. 障害報告、問合せ等

4.1.1. コールセンター連絡先

システム利用時の障害報告、問合せについては、下記まで御連絡下さい。

【コールセンター連絡先】

担 当	財団法人建築行政情報センター 道路情報登録閲覧システム担当者
住 所	〒162-0825 東京都新宿区神楽坂一丁目15番地 神楽坂1丁目ビル4F
メールによるお問合せ	gr-douro@icba.or.jp
FAX によるお問合せ	03-5206-6136
電話によるお問合せ	03-5225-7719 ※8時30分～19時(土日祝祭日等を除く)

4.1.2. 情報の収集について

障害報告の場合、情報の提供に御協力下さい。

■ 御協力頂く内容

- ① 障害発生時のオペレーション
- ② 各種ログ情報の提供
- ③ データベース情報の提供

※ ②、③については、必要に応じて依頼させていただきます。